

「神経筋難病病院における中心静脈栄養デバイスに係る安全性の調査

～中心静脈カテーテルと末梢挿入型中心静脈カテーテルの比較～ 第2報」

の検証に関する研究へのご協力をお願い

2016年4月1日から2019年6月30日までの間に、当院に入院され中心静脈カテーテルを留置されていた患者様を対象として「神経筋難病病院における中心静脈栄養デバイスに係る安全性の調査 ～中心静脈カテーテルと末梢挿入型中心静脈カテーテルの比較～ 第2報」の検証に関する研究を実施させていただきたいと思っております。

<研究の目的>

中心静脈カテーテルの挿入は、口からの栄養摂取、経鼻胃管または胃瘻からの栄養摂取（経腸管栄養）では十分な栄養を確保することができない、末梢静脈からの点滴が長期に及ぶ場合に適応となります。栄養障害は免疫力の低下、肺炎等の感染症を引き起こしやすいため、適切な栄養管理が必要となります。当院では、末梢の静脈を穿刺してカテーテルを挿入する末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）を導入いたしました。そこで、中心静脈カテーテル留置中の血流感染の発生状況や留置期間を検証したいと考えています。

<研究の方法>

2016年4月1日から2019年6月30日までに、当院に入院され中心静脈カテーテルを留置されていた患者様を対象とさせていただきます。留置されていた中心静脈カテーテルの種類、挿入部位、留置期間（挿入日と抜去日）、挿入部の感染徴候（発熱、発赤、腫れ、浸出液等）、留置中の合併症、血液培養検査結果をカルテから収集します。

<個人情報の保護>

今回の研究において、留置されていた中心静脈カテーテルの種類、挿入部位、留置期間（挿入日と抜去日）、挿入部の感染徴候、留置中の合併症、血液培養検査結果以外の情報はカルテから収集いたしません。また、収集した情報は、個人情報の保護に十分留意し、個人を特定できる情報を削除し、情報の数値化、データファイルの暗号化を行い、第三者が個人情報を閲覧できないように取り扱いたします。さらに本研究の実施過程およびその結果を学会や論文等で公表する際には患者様を特定できる情報は一切含まず、研究以外の目的には使用いたしません。本研究終了後、すべての情報は破棄いたします。

また、研究参加は自由意志であり、拒否された場合でも不利益は発生いたしません。ご同意いただけない場合やお問い合わせ等がございましたら、下記までご連絡お願いいたします。なお研究手続き上、2019年10月31日までにご連絡お願いいたします。

独立行政法人国立病院機構徳島病院

〒776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 電話：0883-24-2161（代表）

研究代表者：感染管理認定看護師 後藤亜香里

共同研究者：薬剤師 阿部正博 都築大輔

医師 大畑誠二 宮崎達志